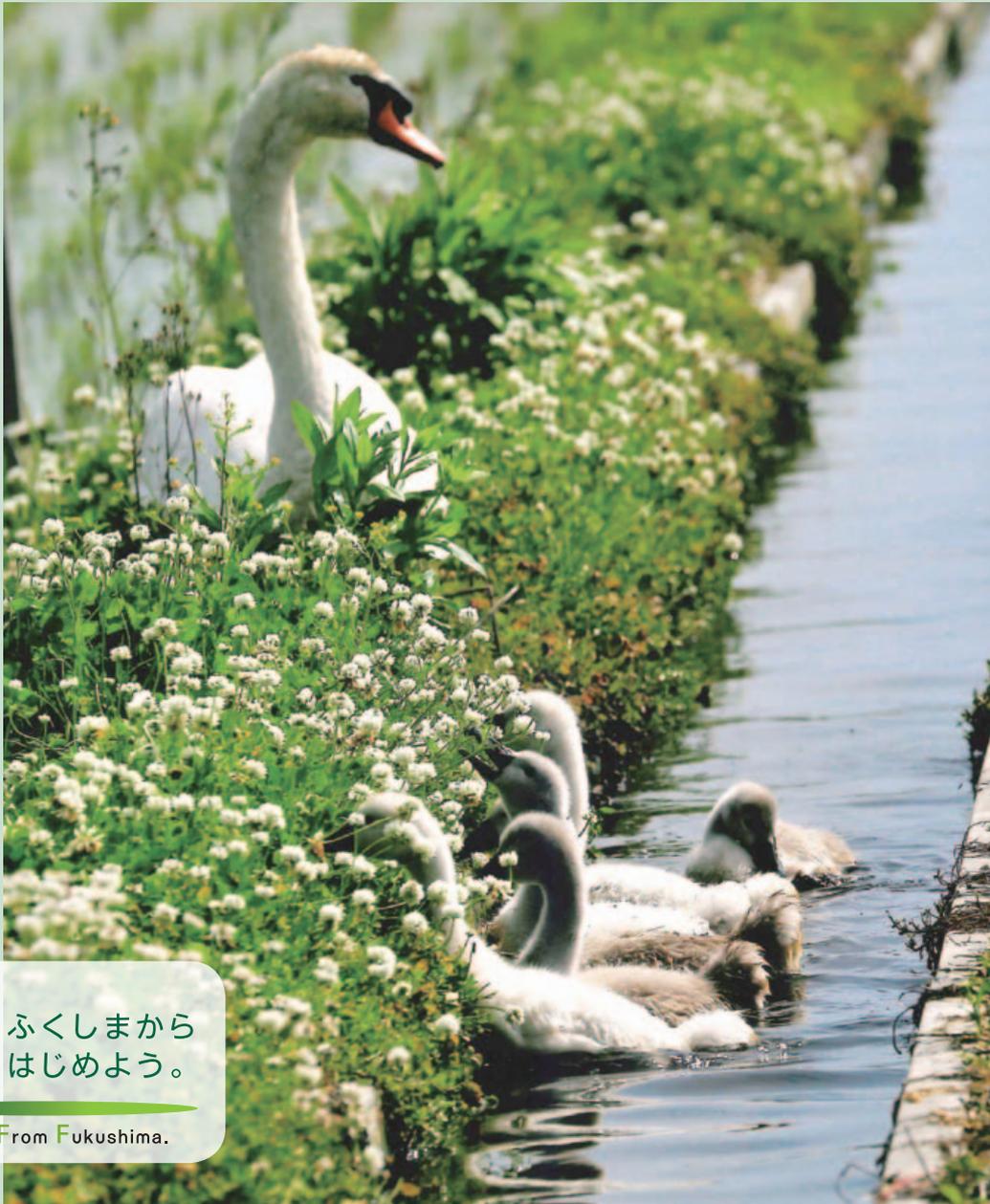


# 林業福島

No. **668**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会  
会長 齋藤卓夫



ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.

**4** 2020

監 修 ■ 福島県農林水産部  
表紙の写真 ■ 疎水の親子連れ



# 豊かで活力ある森林を次の世代へ

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会  
会長 齋藤卓夫

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会の運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、東日本大震災や原発事故から丸九年が経過しましたが、本県森林・林業の震災からの復興は、復興・創生期間終了までの十年間で達成できるものではなく、復興を一層前進させ、令和三年度以降も切れ目なく森林整備の推進や風評の払拭、林業担い手の確保・育成、きのこ類の生産振興などの課題に取り組んでいかなければなりません。そのためには、復興に臨むための制度の継続、充実と財源の確保が必要であることから、林業関係団体が一体となつて国などに要請してまいりました。その結果、昨年十二月原発事故の被災地再生に向け引き続き国が前面に立ち対応する方針が閣議決定されました。皆様のご支援にこの場をお借りして御礼申し上げます。

また、昨年十月の台風十九号「令和元年東日本台風」は各地に山地災害、林道被害等大きな傷跡を残しました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早く日常の生活に戻りますようお願い申し上げます。近年の台風による風水害は大規模化してきており、適切な森林整備を通じて森林が持つ国土保全、水源のかん養、地球温暖化防止などの多面的機能を十分発揮させることにより、県民の皆さんの生活を守っていくことが益々重要になってきていると考えております。

当協会は、今後も県内森林・林業関係団体との連携を強化しつつ、ふくしま復興のシンボルとして平成三〇年度に行われた全国植樹祭や全国林業後継者大会の成果が次の世代に確実に継承されるよう、「キラリ！森林づくり」をキャッチフレーズに、人づくり（森林整備の推進と森林・林業の振興）、心づくり（緑化の推進）、産地づくり（きのこ類の振興）及び県土づくり（測量設計調査等の実施）の四つの柱で各種事業を積極的に展開してまいりますので、皆様の一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 《も く じ》

### とびら

豊かで活力ある森林を次の世代へ

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

会長 齋藤卓夫……………1

林業研修拠点の整備について……………2

令和2年度県林業関係当初予算……………3～6

令和元年度福島県きのこセミナーを開催……………7

普及指導員通信……………8

森林管理署メモ……………9

木連だより……………10

木の文化を育む<sup>⑬</sup>……………11

木材市況・ふくしま東西南北……………12

はなしのひろば・お知らせコーナー……………13

# 林業研修拠点の整備について

「林業の人材育成に関する基本構想を公表しました」

福島県農林水産部林業振興課

## 1 はじめに

福島県では、東京電力福島第一原子力発電所事故以降新規林業就業者が減少しており、森林再生と林業成長産業化実現のため、林業の人材育成が喫緊の課題となっています。

また、平成三一年四月に施行された森林経営管理法（新たな森林管理システム）により、森林所有者が適切な経営管理を行うことができない森林を受託し管理する市町村の森林・林業に関する役割も今後ますます重要になってきます。

このような状況を踏まえ、県では令和二年二月、「林業の人材育成に関する基本構想」を取りまとめ公表するとともに、基本構想の実現に向け、令和二年度予算に新たに「林業従事者等人材育成事業」を計上し、取組を進めることとしています。

## 2 林業研修拠点について

基本構想では、林業の人材育成を担う研修拠点として、専門的な技術や技術を備えた人材を育成するための研修講座の開設と拠点施設を整備することとしています。

研修講座は、林業への就業希望者を対象とした一年間の「就業前長期研修」と林業従事者や市町村職員を対象とした「短期研修（リカレント研修）」の二つの講座を開設します。

長期研修は、森林・林業に関する幅広い知識と技術の習得や森林施策に必要な資格取得のほか、放射性物質対策など本県特有の実情やICT等を活用した先端林業技術などにも対応したカリキュラムとし、実践力を有する人材を育成します。また、短期研修では、森林・林業の基礎知識、新たな森林管理システムの実務

に必要な知識や森林経営管理能力の向上に資する講座など、ニーズに応じた様々な研修講座を設けます。長期研修については令和四年四月、短期研修は令和三年四月に開講予定です。

また、これらの研修を行うため、県林業研究センター多目的広場に新たに拠点施設を整備します。拠点施設は研修棟のほか、研修生の安全を確保しながら確実に技能・技術を習得するための実習棟を整備することとし、木造平屋建てにより延べ面積約一、二八〇平方メートルの施設とする予定です。また、拠点施設には林業機械のほかハーベスタシミュレーター



実習棟での装置を用いた伐倒反復訓練（イメージ）

や伐倒反復訓練装置、最新ICT機器等を導入し、充実した研修を行える施設とする予定です。

## 3 林業従事者等人材育成事業について

（R2予算 五三、〇五六千円）

基本構想の実現に向け、令和二年度は施設整備のための測量・調査と施設等の設計を実施する予定です。また、具体的なカリキュラム等の作成のほか、開講に向けた広報活動を行う予定です。

今後、基本構想に基づき、具体的な研修内容等について検討してまいります。より良い研修となるよう、関係者の皆様の御協力をいただきながら取組を進めていきたいと考えています。



# 令和二年度県林業関係当初予算

## 福島県農林水産部

### 森林づくりの計画・調整

#### ▼森林計画課

森林計画課は、森林計画関係、森林環境税の総合調整、森林整備地域活動支援交付金事業及び森林林業関係各課の調整業務を担当しています。

#### ■令和二年度予算

○県総予算（一般会計）

一、四四一、八三六百万円

（対前年比九八・七割）

○農林水産部予算（一般会計）

一二一、四六二百万円

（対前年比一〇一・七割）

○森林林業関係予算（一般会計）

二五、六五八百万円

（対前年比一〇二・〇割）

#### ■森林環境税を財源とする事業

（森林環境基金事業）

森林環境税を導入し、「県民一人一人が参画する森林づくり」に取り組んでいます。また、「森林の未来を考える懇談会」から提出された「森林づくりの提言」を受け、今年度から森林環境教育に向けた調査事業を実施します。

令和二年度森林環境基金事業の当初予算額は一〇億五、〇九一萬二千

円です。このうち、森林計画課が実施する事業は次のとおりです。

①森林環境適正管理事業

一一、六七九千円

②森林環境交付金事業

三一五、二七四千円

③ふくしまから はじめよう。森林

とのきずな事業一一、六九六千円

④ふくしまの森林文化継承事業（二部）

五、一六七千円

⑤森林環境等調査発信事業

五、二三八千円

⑥森林環境基金運営事業

二、〇一六千円

#### ■地域森林計画の編成等

地域森林計画は、森林の保全や森林整備の目標、森林施業上の指針及び規範を示すものです。

本年度は、県南農林事務所管内を調査し、奥久慈地域森林計画の樹立を行います。 七、六一七千円

#### ■森林整備地域活動支援交付金事業

森林の多面的機能が十分に発揮されるよう適切な森林整備の推進を図るため、森林施業の集約化に必要な

「森林経営計画の作成」を支援します。

①「森林経営計画作成促進」への支援

②「森林境界の明確化」への支援

六、三八一十千円

#### ■林業成長産業化地域創出モデル事業

森林資源を活用した地域の活性化を図るため、森林資源を循環利用し、林業の成長産業化を図ることにより、地元へ利益が還元される取組を支援します。

①林業機械作業システム整備事業

五、三三三千円

②木材加工流通施設等整備事業

八三、〇七六千円

③木質バイオマスエネルギー利用促進施設整備事業

三九、六八〇千円

④先進的モデル提案事業

八、〇〇〇千円

#### ■森林環境モニタリング調査事業

森林内において放射性物質の広域的・継続的なモニタリング調査を行うとともに、里山再生モデル地区及び里山再生事業新規採択地区において、空間線量率や立木等の放射性セシウム濃度の測定を行います。

①森林環境モニタリング調査事業

一六七、五〇〇千円

②ふくしま森林再生推進事業

五一、〇〇〇千円

③里山再生モニタリング事業

一一〇、〇〇〇千円

#### ■森林環境譲与税を財源とする事業

森林環境譲与税は、森林吸収源対策のため、森林整備等の恒久的な財源として制度化されました。県譲与分は、「森林環境譲与税基金」を設け、他財源と区別し、活用していきます。

令和二年度の森林環境譲与税基金の当初予算額は一億四、三八七萬二

千円で、このうち、森林計画課が実施する事業は次のとおりです。

①森林情報支援事業

森林管理に必要な森林基本図等の森林情報の整備を図ります。

二六、八五六千円



森林の整備と林道・森林作業道の整備 ▼森林整備課

令和二年度においては、東日本大震災以降、森林の公益的機能低下が懸念されるため、引き続き森林整備や路網整備を推進するとともに、放射性物質の拡散防止対策に取り組みます。

また、県内では主伐期を迎える人工林が七割を占めていることから、伐採後再造林による将来の森林資源造成のため、伐採と造林を連携して実施し低コスト化を図る一貫作業システムを支援するほか、令和元年東日本台風により被災した林道施設を復旧する市町村へ支援を行います。

■森林再生関係

原子力発電所の事故による放射性物質の影響を受けた森林の再生を図るため、間伐等の森林施業や路網の整備と、その実施に必要な放射性物質対策を行う市町村等事業の支援と県事業の推進に取り組みます。

また、きのこ原木林等広葉樹林の再生に必要な伐採と放射性物質濃度等調査の実証的な取組を支援します。

- ① ふくしま森林再生事業  
四、四七〇、七三六千円
- ② 広葉樹林再生事業  
三〇四、二四〇千円

■森林整備関係

民有林を対象に公共事業及び森林環境基金により、林業事業体等が計画的に行う間伐、再造林、一貫作業システム等の森林整備を支援します。

- ① 一般造林事業（公共事業）  
七〇八、五二四千円

- ② 森林整備事業（森林環境基金事業）  
四一九、八九二千円

- ③ 森林資源造成支援事業（森林環境基金事業）  
四五、五一千円

■公有林・種苗関係

県土の保全等に資する県営林の整備を推進するとともに、コンテナ苗生産施設の整備支援により、花粉の少ないスギ苗木の早期供給に取り組みます。

- ① 県営林の保育管理事業  
九八、二八五千円

- ② 花粉の少ないスギ苗木等の供給体制整備  
一〇、〇二八千円
- ③ 林業種苗生産施設体制整備事業  
一〇、五五〇千円

■林道・森林作業道整備関係

森林の多面的機能を高度に発揮させるため、森林の適正な整備・保全を図るとともに効率的で安定した林業経営の確立、山村地域の定住環境

の整備等、森林整備や林業生産活動の基盤となる林道や作業道の路網整備を促進します。

事業） 二六、四〇〇千円

■林道災害復旧関係

- ① 林業専用道整備事業  
一、五八四、六一一千円
- ② 林道事業（林業専用道を除く）  
九九五、五二五千円

令和元年東日本台風で被災した林道の復旧のほか、異常気象等により林道が被災した場合に、市町村が行う復旧事業を支援します。

- ③ 森林整備促進路網整備事業（森林環境基金事業）  
一二、六〇〇千円
- ④ 間伐材搬出支援事業（森林環境基金事業）  
一、八一五、三〇六千円

- ① 林道災害復旧事業（現年災）  
四二〇、七三四千円
- ② 林道災害復旧事業（過年災）  
一、八一五、三〇六千円



## 林業・木材産業の振興と担い手育成 ▼ 林業振興課

林業振興課は、県産材の需要拡大、人材の育成等により、林業・木材産業の成長産業化を図るとともに、県内で生産される林産物の安全性を確保するため、「県産材製品の安全確認」や「安全なきのこ生産」に向けた事業を展開します。

### ■ 県産材の安定供給・利用促進・需要拡大

県産材の安定供給・利用促進・需要拡大を図るため、高性能林業機械の導入に要する経費の支援、新たな木材利用技術の導入・普及、公共スペースへの県産材製品の設置や児童・生徒への木育活動等、県産材による家づくりの普及、ペレットストーブの導入等の支援及び首都圏や海外への販路拡大支援を行います。

### ◆ 林業・木材産業金融の充実

八〇四、六三九千円

- ① 林業振興資金
  - ② 森林組合連合会事業振興資金
  - ③ 木材産業等高度化推進資金
  - ④ 林業・木材産業改善資金貸付金
  - ⑤ 林業・木材産業改善資金管理指導費
- ◆ 木材産業活性化事業 五三九千円
- ① 木材業者登録事務

### ◆ 林業構造改善事業

一〇、四八六千円

### ◆ 森林環境基金事業

一一一、七〇六千円

- ① ふくしまの低炭素社会づくり推進事業
- ② もつともつと木づかい推進事業
- ③ 地域林業技術伝承事業
- ④ 木(森)に由来する伝統文化継承事業

### ◆ ふくしま県産材競争力強化支援事業

一八、一〇〇千円

### ■ 林業就業者等の確保・育成

「林業の人材育成に関する基本構想」に基づき、林業担い手の育成を図るための研修講座の開設や、研修施設の整備に取り組むとともに、林業への新規就業の促進や、林業事業者への社会保障拡充支援、林業労働者の能力向上に対する支援など、総合的な担い手対策を展開します。

### ◆ 林業従事者等人材育成事業

五三、〇五六千円

- ① 林業研修拠点整備事業
- ② 林業研修拠点開講準備事業
- ◆ 森林整備担い手対策基金事業

- ① 新規参入等促進事業 八八、二五九千円

- ② 社会保障充実強化事業
- ③ 林業労働者等研修事業 等
- ◆ 林業労働安全衛生対策 一、四三五千円

### ■ 林産物の安全性の確保

県内で生産される林産物の安全性を確保し、経営の安定と生産の回復を図るため、木材製品の放射線量の検査、安全なきのこを生産するために必要な生産資材の導入支援、原木しいたけ露地栽培等の実証事業などを実施します。

### ◆ 県産材安全性確認調査事業

四三三千元

### ◆ 放射性物質被害林産物処理支援事業

七五五、四六七千円

- ① 汚染樹皮処理支援業務
- ② 樹皮利活用安全性検証事業
- ◆ 特用林産物の振興 二八七、六七五千円

### ◆ きのこ類振興対策事業

- ① 安全なきのこ原木等供給支援事業
- ② 安全なきのこ原木等供給支援事業
- ◆ 森林活用新技術実証事業 五六、八〇〇千円

- ① 原木しいたけ露地栽培実証事業
- ② 広葉樹安定供給調査事業
- ③ 山菜生産再開のための技術検証事業

### ◆ 福のしま「きのこの里づくり」事業

一一、七二二千元

### ◆ 林業試験研究施設の管理運営

二二、〇八二千元

## 森林づくり活動の推進と安全で快適な県土の保全 ▼ 森林保全課

森林保全課では、県民参加の森林づくり・緑化の推進及び森林病虫害から森林を守る森林保護、安全で快適な県土形成のための治山事業、保安林制度に基づく保安林の適正管理、民有林を開発する際の審査・指導に関する業務を担当しています。

■ 森林づくり活動の推進と森林保護

県民参加による森林づくり活動と緑化運動を支援するとともに、森林とのふれあいの場の提供や森林づく

りの理念を発信する拠点を整備することにより、第六九回全国植樹祭を契機に高まった県民の森林づくりへの意識を更に醸成し、将来へ引き継ぐための事業に取り組めます。

また、松くい虫やカシノナガキクイムシ等による被害から、森林を守るための防除対策や野生動物との共生のための里山林の整備活動を支援します。

◆森林とのふれあい・緑化活動の推進

① 総合緑化対策事業

九、九八四千元

② 森林総合利用対策事業

四一、九一三千元

③ 森林とのふれあい施設管理事業

一〇〇、二二二千元

◆森林環境基金事業

① 森林環境学習の森整備事業

五、〇〇六千元

② 森林づくり総合対策事業

一八、二五六千元

③ 里山林整備事業

三五、五九四千元

④ ふくしま植樹祭開催事業

二〇、〇〇〇千元

◆森林保護

① 森林病害虫等防除事業 等

五九、八四六千元

- ・ 松くい虫、カシノナガキクイムシの防除対策
- ・ 山火事予防・森林保険加入促進等

■治山事業による県土の保全

治山事業は、民有保安林の維持造成を通じて、山地に起因する災害から県民の生命・財産を保全するとともに、水源のかん養、生活環境の保全・形成を図り、安全で安心できる豊かな暮らしの実現を図るうえで不可欠な事業です。

令和二年度の治山事業は、令和元年東日本台風災害の被災地復旧や森林の機能強化に加え、流木対策、防災・減災・国土強靱化対策に取り組みます。

特に復興創生期間の最終年度であり、復旧・復興の要となる海岸防災林造成事業は、着実に進展しており、津波により失われた保安林の機能を確保するため、完了を目指し、復旧・復興をさらに加速させます。

県単独治山事業については、国庫補助事業に採択されない復旧及び予防が必要な地区のうち、緊急性や優先度を総合的に勘案し、箇所毎の優先順位を適正に定め順次執行していくこととしています。

全庁的に展開している「地産地消の推進」については、県産間伐材を利用した森林土木工法の推進や平成十四年度から導入している治山ダムの間伐材型砕工等により、県産材の積極的な使用を推進してまいります。

また、森林GISを活用し、最新の山地災害危険地区情報を県民に提供するなど、ソフト対策の充実を図ることにより、防災意識の高揚や避難態勢の整備が進められ、減災効果の向上に寄与することを期待しています。

◆一般治山費

八、四二三、二三四千元

◆一般治山費（県単）

二四五、一八八千元

◆災害関連治山費

一一、二六一千元

◆県単治山費

八二二、三九二千元

◆治山災害復旧費

四七、二七四千元

■安全で快適な暮らしを守る保安林の管理と適正な林地の利用

現在、県内においては、森林面積の約四一割に当たる約四〇万畝の森林が保安林に指定されています。

水源の涵養や山地災害の防備、生活環境の保全・形成等、私たちの暮らしを守るために、特に重要な役割を果たしている森林を保安林に指定するとともに、立木の伐採制限や適切な実施の実施を推進するなどして、森林の保全と機能の維持増進を図ります。

併せて、保安林等を適正に管理するため、森林保全巡視員による森林パトロールを実施します。

さらに、森林において土石を採掘したり、林地以外に転用する行為が無秩序に行われると、森林の働きが損なわれ災害が発生する恐れがあることから、林地開発許可制度に基づき審査や指導を行い、開発規模が大きい場合などは、有識者の意見を聴くために森林審議会森林保全部会を

開催します。

① 森林保全管理事業

七、九四九千元

② 保安林整備委託事業

一四、五九一千元

③ 保安林整備管理事業

一一、五〇〇千元



きのこセンター  
だより

## 令和元年度福島県 きのこセミナーを開催

(公社) 福島県森林・林業・緑化協会  
きのこ振興センター  
(TEL 024-947-2188)

令和二年二月二一日(金)、福島県農業総合センターにおいて、令和元年度福島県きのこセミナーを開催しました。きのこ生産者、県、市町村、各種団体等から約八〇名の皆様に参加され、熱心に受講されていきました。東京電力福島第一原子力発電所の事故から苦難の道を歩んできたきのこの原木栽培ですが、再生への礎を築くものとしたく、本セミナーは森林資源の利用等を中心とした内容で行いました。

まず、「循環型林業への取り組み」令和を超えて、林業再生へのヒント」と題して、ゆきぐに森林組合(新潟県) 代表理事組合長の村松二郎氏より基調講演をいただきました。村松氏は、全国森林組合連合会の代表理事会長も務められており、全国の農林業の発展のためにご尽力をされております。講演の内容は、市町村合併により、ゆきぐに森林組

合が二つの市域を管内とする組合として誕生したお話や地域の広葉樹活用から出発し、なめこの出荷量が年間一、六〇〇トと全国有数のなめこ生産地となるまでの苦労話等について、お話しされました。また、平成二三年三月の東北地方太平洋沖地震の直後に起きた長野県北部地震により、保有していたナメコ菌床瓶を全量廃棄するという被害に遭いながらも、その後立ち直るまでの経緯や全国森林組合連合会の会長として国へ働きかけを行った内容等についても、とても貴重なお話を伺いました。

続いて、「今だから言える。原木しいたけの大切さ」原木しいたけ復活にむけて」と題して、有限会社なかのきのこ園(茨城県) 代表の飯泉孝司氏より講演をいただきました。飯泉氏は、一般社団法人東日本原木しいたけ協会などの中心的な役割を務めていらつしやいます。震災前は使っていた原木のほとんどは福島県産でしたが、現在は主に長野県や埼玉県、大分県等の原木を使用しているそうです。しかし、入荷時期や原木の質など問題も多く、コスト面でも非常に深刻な状態となっていることから、一刻も早い里山再生が急務となっています。そこで、「NPO法人里山再生と食の安全を考える会」を立ち上げ、茨城県や福島県

の相馬地方で里山再生事業としてコナラや桜、クヌギの植樹や原木の放射能低減の手法を開発するための実験等を行っているという内容について、講演が行われました。

最後に、「福島県に適した品種の紹介と栽培のポイント」と題して、森産業株式会社課長の吉田雅之氏より講演をいただきました。森産業で新たに開発された品種「104」の特徴や試験栽培の状況等、その他原木用、菌床

として現在販売されているものについての説明が行われました。また、東日本大震災の影響により、原木栽培から小規模な菌床製造設備を導入し、菌床栽培へ転換した東京都のしいたけ生産者の事例が紹介されました。

全体の質疑については、里山保全事業の実施内容や震災、放射性物質汚染からの森林再生としての取り組みの重要性について、積極的に意見が交わされました。里山の再生は、地域の復興や環境保全の面からいつでも最重要課題であると考えます。今後とも、更なる復興・再生にむけて、情報発信をして参りたいと思います。



開会の様子



ゆきぐに森林組合  
村松 二郎氏



(有)なかのきのこ園  
飯泉 孝司氏



森産業株式会社  
吉田 雅之氏

# 南会津地域におけるカシノナガキクイムシ 被害拡大防止の取組

福島県南会津農林事務所

林業普及指導員 眞 壁 晴 美

## 1 はじめに

南会津地域のカシノナガキクイムシ被害は、平成21年に只見町田子倉湖周辺において初めて確認されてから、これまで下郷町、只見町、南会津町（H29以降は被害なし）で確認されています。被害量は、平成29年度の1,917㎡をピークに平成30年度は大幅に減少しましたが、令和元年度には再び増加に転じており、未だ終息の目処が立っていない状況にあります。

そのため、南会津農林事務所ではこれまで町や国、林業事業体と連携してカシノナガキクイムシ被害対策に取り組んできました。

## 2 取組内容

### ○森林病害虫等防除事業による防除の実施

青少年旅行村いこいの森（只見町）、塔のへつり（下郷町）のような自然公園において、健全木への樹幹注入（殺菌剤の注入）と被害木の伐倒駆除を行い、被害の終息に向けて取り組んでいます。また、只見町の比較的被害の多い地域においては、令和元年度から「おとり丸太法（※）」が新たに補助対象となったのに伴い、誘引駆除を行って生息密度の低減を図っています。

事業実施にあたっては、毎木調査や実施区域・防除方法の選定等において町を支援しており、特に、おとり丸太法は設置場所を誤ると、未被害地へ被害拡大しかねず場所の選定が難しいことから、町と協議して選定しています。

※おとり丸太法：フェロモン剤を使用して新鮮な丸太にカシノナガキクイムシを誘引し穿孔させた後、破砕等により材内に入ったカシノナガキクイムシを殺虫する方法。

### ○地区別研修による新たな駆除方法の検証（カシナガホイホイの試行）

新たな駆除方法を検証するため、林業普及指導職員の地区別研修において「カシナガホイホイ」（カシノナガキクイムシを捕獲するための市販の粘着シート）を只見町内に令和元年7月2日～9月17日まで設置し捕獲状況を検証しました。その結果、多くのカシノナガキクイムシの捕獲が確認され有効な方法であることが検証され、急傾斜地で伐倒駆除が困難な場所などでの活用が期待できると思われまます。

### ○南会津地方森林病害虫等被害対策連絡協議会の開催

カシノナガキクイムシ被害や鳥獣害（ツキノワグマ、ニホンジカ）の拡大等が懸念されたことから、令和2年2月27日に南会津地方森林病害虫等被害対策連絡協議会を開催しました。当協議会は3年ぶりの開催であったため、関係者間で近年の被害状況等について情報を共有することができ、また未被害町村の意識啓発を図ることもできました。



おとり丸太の設置状況



カシナガホイホイによる捕獲状況

南会津地方森林病害虫等  
被害対策連絡協議会

## 3 おわりに

令和元年度の被害量増加は、冬場の積算温度が高くカシノナガキクイムシが越冬しやすい状況であったことが一因と考えられます。そのため、この冬の記録的な暖冬の影響により、今年度も被害拡大が懸念されています。

カシノナガキクイムシ被害は、穿孔されても枯損しない木があることなどから、目視による被害の全容把握が困難で、完全駆除が難しい状況にあります。そのため、限られた予算の中であらゆる防除方法の中から、適所適材の方法を選択して取り組むことが重要なため、引き続き、防除技術の情報収集や検証等に努めながら、関係者と連携して取り組んでいきたいと考えています。

森林管理署メモ

## 戸倉山の復旧治山

平成二九年四月に報告した岩瀬郡天栄村の戸倉山治山工事について、進捗状況をご紹介します。

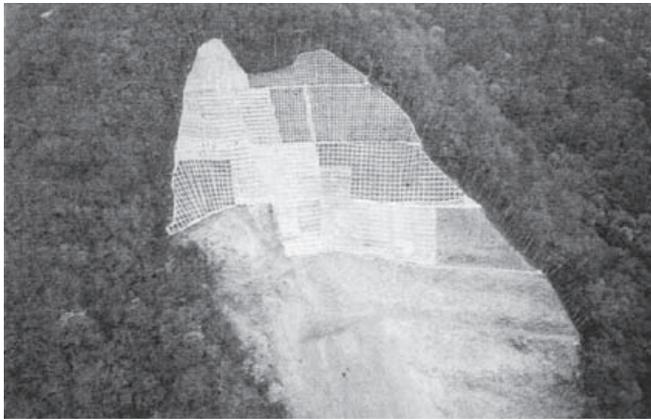
平成二三年三月十一日の東北地方太平洋沖地震とその後の断続的な余震により、戸倉山南東斜面に深層崩壊が発生しました。当該地は、急峻な地形に加えて安山岩や凝灰岩のため風化侵食を受けやすく、崩壊地は比高差一五〇㍎、面積は約一・五㍎に及び、崩落した大量の土砂は当時整備されていた直下の県道を寸断しました。地震災以前に施工した既設山腹工も被害を受けました。

このままでは拡大崩壊や異常出水による土砂礫流出の危険性があり、山地災害の再発防止及び保全対象を保護する目的で、復旧治山工事を継続して実行しています。

崩壊地は最大傾斜六〇度を超える急崖地であるため、資材及び重機等



平成29年4月



令和元年度完成



コンクリート打設

の搬入にはモノレール、法切工にはRCM（高所斜面掘削機）を使用しています。

令和元年度においては、現場吹付



法砕工を施工しました。施工区域は機材置き場から高低差で一〇〇㍎もあり、通常のコンクリート圧送は、材料が分離したり吹付け強度が低下することが懸念されました。そこで提案されたのが、セパレートショットという工法です。これは、コンクリートの原料となる細骨材とセメントミルクをそれぞれ別の管で圧送し施工場所で混合する方法で、高所で離れた箇所への吹付けが可能となり、かつ品質の安定したコンクリート打設ができます。

写真は、その打設の様子です。安

全帯と命綱で体を支えながら吹き付けていきます。

また、崩壊地は国道から一望されることから、周辺林地との景観の調和を図るため、中腹下部については植生を導入した緑化工も計画しています。

平成二四年度から工事を実施しており、令和元年度時点では崩壊地面積の約四〇㍎の施工を完了しています。東日本大震災から十年目に入つた今日、戸倉山の復旧治山工事の早期完成を目指して今後も工事を継続する予定です。

木連だより

東京オリンピック・  
パラリンピック選手村  
ビレッジプラザを  
福島県産材が支えます



A 5棟 レシプロカル架構 柱材 福島県産材（ヒノキ）



C 1棟 梁・束 県産材（スギ）



自治体名の明記「福島県」（レシプロカル架構柱材）

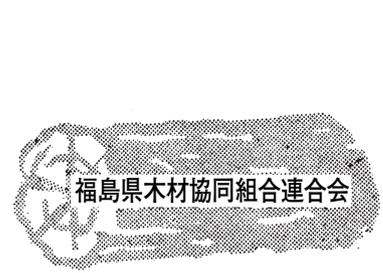


東京オリンピック・パラリンピック選手村ビレッジプラザは、大会期間中の選手たちの生活を支えるため、雑貨店等の店舗、カフェ、メディアセンターなどが入るとともに、入村式・チーム歓迎式典などが行われる

選手村の代表的施設です。この選手村ビレッジプラザは全国の自治体から木材を集め建築されましたが、福島県も福島県産材の提供を行い、県木連がこの供給のお手伝いをさせていただきました。

「選手村ビレッジプラザ」は木材一、三〇〇立方メートルを使った約六、〇〇〇平方メートル（部材本数 約四万本）の木造平屋の建物で十三の棟からなり、福島県産材は正面玄関となるA5棟に柱・土台、A5棟に続くA3棟に柱・土台、雑貨店やオフィシャルショップが入るC1棟に柱・梁・束・床板と合計で一三立方メートル（同約三千本）が使用されています。木材一本一本に自治体名「福島県」が明記され産地が明らかにされています。

この選手村ビレッジプラザで過ごす選手たちの活躍が東京オリンピック・パラリンピック大会を盛り上げてくれることを期待しています。



「選手村ビレッジプラザ」は木材一、三〇〇立方メートルを使った約六、〇〇〇平方メートル（部材本数 約四万本）の木造平屋の建物で十三の棟からなり、福島県産材は正面玄関となるA5棟に柱・土台、A5棟に続くA3棟に柱・土台、雑貨店やオフィシャルショップが入るC1棟に柱・梁・束・床板と合計で一三立方メートル（同約三千本）が使用されています。木材一本一本に自治体名「福島県」が明記され産地が明らかにされています。

に則した三つの木構造架構が採用されており提供する部材の樹種・強度（機械等級区分）・含水率が一本一本指定され、更に仕口加工の機械や自治体名明記の仕方と位置も指定されるなど、量と質を確保しての納材であったため県からお話をいただいた三〇年十二月の着手からおよそ十ヶ月を要し完納しました。

\*レシプロカル架構…  
間仕切り壁を必要としない空間に適している。  
3本の斜柱をツイストさせた組柱により、耐震性を持たせた構造。

木の文化を育む<sup>⑬</sup>

## 福島県森林自己学習支援事業報告会+勉強会②

(アカデミア・コンソーシアムくくしま)

郡山女子大学 人間生活学科 建築デザインコース 准教授 阿部 恵利子

### ○はじめに

福島県森林自己学習支援事業では、同県の森林をフィールドに学生団体がさまざまな活動に取り組むことで学びの機会を得ています。木の文化を育む<sup>⑬</sup>では、前号に引き続き学生団体の活動内容について紹介します。

### ○郡山女子大学

今年度、郡山女子大学では二つの学生団体が福島県森林自己学習支援事業に採択され、本県の森林を活かした活動を推進することができました。

「こおりやま開成の杜 復活プロジェクト」では、磐梯熱海の石筴に位置する郡山開成学園総合教育園(以下、総合教育園)において環境調査を実施し、安全を確認することで、森林利用のための体験プログラム作りや安心して利用できる場所、学習や遊び場づくりを目指す活動に取り組みました。

### 長年利用されていない総合教育園

はイノシシなどの動物に荒らされ、さらには東日本大震災の影響もあり、利用が難しい状況であったことから、このプロジェクトは、森林復活の第一歩となる取り組みとなりました。

安全性を確認するために、まずは環境放射線量の測定を実施し、測定平均値は私たちの生活圏よりも低い値であることが確認されました。また、きのこの調査では、食品の出荷制限を超えるきのこは、いずれも地面から生えるきのこでしたが、地上性のきのこでも腐生性(落ち葉や倒木を栄養源とする)のきのこ(ハタケシメジ、ツチスギエダタケモドキ、ムジナタケ等)の放射性セシウム濃度は低いことが確認できました。一方、木材から生えるきのこは基準値を超えるきのこは見られませんでした。

動物の定点観測調査では、主にイノシシ・カケス・ムササビ・アナゲ

マが確認されました。クマが樹木に腰掛けながら木の実を食べた形跡もあり、森の状況をよく観察することで、さまざまな情報が得られることを学びました。また、森には様々な種類の野鳥も来ていることから、野鳥が巣に入りやすい向きや場所などを考慮しながら十七個の巣箱を設置しました。来春には野鳥が巣箱を利用した状況を調査確認する予定です。

今後も森林の活用について考え、継続して安全評価を行うとともに、植林地と自然林の植生や野鳥調査のほか、研究のフィールド、子どもを対象とする企画等に活用できるように、検討していく予定です。

「女子大生と職人さんがコラボ」  
 ⑬の技術・知識を未来に届けるプロジェクト」では、建築を学ぶ女子大生が職人さんから技術や知識を学び、得られた内容を活かして県産材の利用法について検討・実践することを目的に活動しました。『林業福島』令和元年十一月号に掲載

### ○まとめ

福島県内の四大学五団体がさまざまな活動に取り組み、有意義な成果を得ることができました。

森林資源をどのように活かし未来へ継承していくのか、今後も若い感性で森林を活用したさまざまな取り組みを積極的に継続していきけるよう、願っております。勉強会の内容は次号にて紹介します。



郡山女子大学ナチュラルスタイル部 (NLS部) 活動の様子

# 木材市況

## 素材の価格〈工場着価格〉(2020年1月15日現在)

(単位: m当り千円)

| 区分    | 形量    |       | 材質    | 樹種         | 中通り地方      |            | 会津地方       |            | 浜通り地方      |            | 県平均        |            |
|-------|-------|-------|-------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|       | 径(cm) | 長さ(m) |       |            | 当月         | 前月差        | 当月         | 前月差        | 当月         | 前月差        | 当月         | 前月差        |
| 一般用材  | 小     | 5~9   | 4.00  | 並          | スギ         | 12 (10~14) | 1          | (0~0)      |            | 9 (9~9)    |            | 11 (9~14)  |
|       |       | 10~14 |       | 並          | スギ         | 13 (13~14) |            | (0~0)      |            | 12 (12~13) |            | 13 (12~14) |
|       | 中     | 14~22 | 3.00  | 並          | スギ         | 12 (10~13) | △1         | 13 (13~13) |            | 12 (11~12) |            | 12 (10~13) |
|       |       |       |       | 並          | ヒノキ        | 18 (16~19) |            | (0~0)      |            | 15 (14~16) |            | 16 (14~19) |
|       |       |       | 並     | スギ         | 16 (15~17) |            | 10 (10~10) |            | 17 (17~18) |            | 16 (10~18) |            |
|       |       | 20~28 | 6.00  | 並          | ヒノキ        | 28 (25~32) |            | (0~0)      |            | 22 (20~25) | △1         | 25 (20~32) |
|       |       |       |       | 並          | スギ         | 12 (12~13) |            | 11 (10~12) |            | 12 (11~13) | △1         | 12 (10~13) |
|       |       |       | 並     | スギ         | 12 (11~13) |            | 11 (11~11) |            | 12 (11~13) | △1         | 12 (11~13) |            |
|       | 30以上  | 10.00 | 並     | アカマツ       | 11 (8~12)  | 1          | (0~0)      |            | 10 (9~10)  |            | 10 (8~12)  |            |
|       |       |       | 並     | アカマツ       | 8 (5~11)   |            | (0~0)      |            | 8 (8~9)    |            | 8 (5~11)   |            |
|       |       | 並     | 米ツガ   | (0~0)      |            | (0~0)      |            | 30 (30~30) |            | 30 (30~30) |            |            |
|       | 28以下  | 3.80  | 並     | 米マツ        | (0~0)      |            | (0~0)      |            | 28 (28~28) |            | 29 (28~30) |            |
| 並     |       |       | エゾマツ  | (0~0)      |            | (0~0)      |            | 25 (25~25) |            | 25 (25~25) |            |            |
| 並     |       | アカマツ  | (0~0) |            | (0~0)      |            | 25 (25~25) |            | 25 (25~25) |            |            |            |
| パルプ用材 |       | 並     | カラマツ  | (0~0)      |            | (0~0)      |            | 25 (25~25) |            | 25 (25~25) |            |            |
|       |       | 並     | マツ    | 7 (7~7)    |            | (0~0)      |            | 7 (7~7)    |            | 7 (7~7)    |            |            |
|       |       | 並     | 広葉樹   | 10 (10~10) |            | (0~0)      |            | (0~0)      |            | 10 (10~10) |            |            |

十二月の原木市場への入荷量は、前月比三割減(前年比四割増)の二六、五一八立方メートルとなっている。  
 販売量は、前月比二割減(前年比五割増)の二六、六〇二立方メートルとなっている。  
 一月の価格は弱含みとなっている。

| 区分   | 形量    |       | 材質 | 樹種   | 会津共販  |     | いわき       |     |
|------|-------|-------|----|------|-------|-----|-----------|-----|
|      | 径(cm) | 長さ(m) |    |      | 当月    | 前月差 | 当月        | 前月差 |
| 一般用材 | 12以下  | 4.00  | 並  | カラマツ | (0~0) |     | 7 (6~9)   |     |
|      | 13~14 |       | 並  | カラマツ | (0~0) |     | 8 (7~9)   |     |
|      | 16以上  |       | 並  | カラマツ | (0~0) |     | 10 (9~10) |     |

注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。  
 2. ( )内は各地域の価格幅、( )外は各地域の平均価格を示す。  
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。  
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

この地は、元禄年間に幕府から三百町歩の入会地として預かったもので、現在は、中田造林組合が、里山の荒廃防止に地道な育林活動を展開している。  
 にほんぶなを水源とする水脈は、阿武隈川と鮫川に分かれ遠く太平洋に注いでいる。  
 また、にほんぶなの森には、大竹亀蔵の木炭講習跡

古くは、白河城下から二本のブナの大木が見えたとの故事が伝わっており、「にほんぶなの」の由来となっている。  
 この地は、元禄年間に幕府から三百町歩の入会地として預かったもので、現在は、中田造林組合が、里山の荒廃防止に地道な育林活動を展開している。

古くは、白河城下から二本のブナの大木が見えたとの故事が伝わっており、「にほんぶなの」の由来となっている。

にほんぶなは、石川町の最東端に位置し、標高が六一六メートル。遠くは那須連峰、磐梯山、安達太良山などが展望でき雄大なパノラマが広がる。  
 尾根には、古道が走り、前九年の役、後三年の役、戊辰戦争などの奥州戦乱を見守ってきた要所でもある。



にほんぶな

県中農林事務所 鈴木 一雄

や安寧な生活を祈った経塚、古代製鉄跡がある。  
 平成十六年には、環境省の「日本の里地里山三十」に選ばれた。



はなしの  
ひろば

## 桜餅

新型コロナウイルス感染症の話題でもちきりの日常にも、時折吹く風にやさしさを感ずるようになってきた。空気も春の匂いだ。東京では、三月中旬に早くも開花宣言があったが、開花宣言を聞くと急に春めきを感じ、どこかに旅がしたいとか、お花見がしたい、とソワソワしてくるのだが、この感染が終息に向かわないと何とも気が乗らない。だから今年は、身近な春を味わうのがいいかも知れない。

まず、和菓子屋さんに「桜餅」がお目見えすると春の入り口を感じる。最初の桜餅は、元禄四年（一六九二）に山本新六という長命寺（向島）の門番が作ったらしい。いずれにしてもサクラの葉を塩漬けにしてでる香りは、その中にできる「クマリン」という物質で、独特の香りがより一層桜餅の風味を引き立てる。

昔の人は「餅は心地良き物、酒はうれしき物、茶はさびしき物」と言っていた。餅には稲の霊が宿ると信じられ、ハレの日の食べ物であった。そして季節が変わると柏餅となり、笹で包むと笹団子になる。どれもこれも葉で包み、餅にしみこんだ香りも楽しむという昔の人の知恵である。が、あんなは甘くて当然なのに「このあんこあまり甘くなくて美味いね」という表現が誉め言葉になってきた。これは、「人は飢えていた時ほど強い甘味をうまい」と思い、栄養的に満ち足りてくると淡い甘味をうまいと思うようになるのだ」と河野友美氏が「味と文化」で述べていた。桜餅を味わいながら「甘味」の話の深さにとっても納得をした。

## 表紙の写真



### 「疎水の親子連れ」

第34回ふくしま緑の写真コンクール  
銀賞  
受賞者 柏館 健さん(いわき市)  
撮影場所：いわき市

発行人  
陽光社印刷株式会社

編集  
福島県内四森林管理署  
福島県森林・林業・緑化協会  
福島県森林組合連合会  
福島県木材協同組合連合会  
福島県農林種苗農業協同組合  
ふくしま緑の森づくり公社  
森林研究整備機構福島水源林整備事務所  
福島県森林・林業・緑化協会  
(福島市中町五番一八号県林業会館内)

(定価 一〇〇円)

## お知らせコーナー

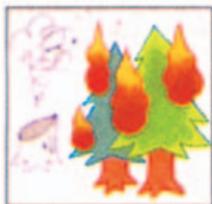
令和2年度

### 一般財団法人福島県林業会館 フォレスト助成金(協賛)事業の募集要項

- 1 趣 旨 一般財団法人福島県林業会館は公益事業としてフォレスト助成金(協賛)事業を募集する。
- 2 総 額 4,500千円
- 3 募集事業の内容
  - (1) 対象事業 イ. 森林の整備 ロ. 木材の利活用 ハ. 特用林産の振興 ニ. 森林・林業教育学習  
ホ. 森林とのふれあい推進 ヘ. 森林・林業に関するその他必要と認める事業
  - (2) 事業費 一事業あたりの助成金(協賛)額は、原則として20万円以内とする。
- 4 助成(協賛)対象者
  - (1) 県内の林業に携わる県内所在の団体であること
  - (2) 交付条件を遵守することが確実であること
  - (3) 交付金によって目的事業を実施することが確実であること
- 5 申請方法
  - (1) 申請手続 事業の目的、内容、交付申請額を福島県林業会館事務局まで提出する。  
詳細は事務局まで電話でお問い合わせください。
  - (2) 事業の実施期間 令和2年4月1日から1年以内
  - (3) 受付期間 令和2年4月1日から5月末日まで
- 6 事業の採択決定
  - (1) 林業会館が設置する「フォレスト助成金審査委員会」で選定いたします。
  - (2) 事業の採決は、1団体原則6回までとする。  
但し、審査委員会で事業継続懸念なしと認めた団体は除きます。
- 7 応募先 〒960-8043 福島市中町5番18号 一般財団法人福島県林業会館事務局あて  
TEL・FAX 024-522-2407

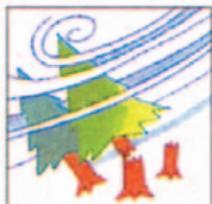
# 備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



## 1 火災

山火事で受けた損害



## 2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



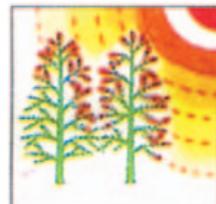
## 3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



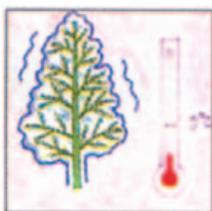
## 4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



## 5 干害

乾燥による枯死などの損害



## 6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



## 7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



## 8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会  
TEL024-523-0255(代)  
または最寄りの森林組合

イワフジの GP シリーズ

# GP-35B グラップルプロセッサ

IWAFUJI  
INDUSTRIAL CO., LTD.



### 傾斜地に対応した全回転チルトプロセッサ

- ・最大 38 度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

### 最新の GP-8 コントローラを搭載

- ・5.7 インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
- ・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
- ・A,B,C,D の 4 コード毎に 4 種類、合計 16 種類の測長設定値
- ・樹種を 4 種類登録でき、個別に測長調整値の設定が可能
- ・材積集計機能を標準で搭載



### 新開発のスタッドローラ (オプション)

- ・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド(鋲)が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
- ・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンスが容易



For the future with forest



**イワフジ工業株式会社**

<http://www.iwafuji.co.jp/>



( 南東北支店 ) 福島県郡山市八山田 5-314

TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

( 本社・工場 ) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1

( 支 店 ) 札幌・東北・南東北・関東・中部・関西・中四国・九州

レインボー薬品の薬剤と資材

# 緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

## 松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤  
スミパインMC  
マツグリーン液剤2  
グリーンガード・NEO

## くん蒸剤

ヤシマNCS

## くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シートハイバリア

## ハチ退治

ハチノックL (巢処理用スプレー)  
ハチノックS (携帯用スプレー)

## 新商品

猪レスSTOPテープ

ヒルノックWスプレー

ヒルノックW



レインボー薬品株式会社

東京都台東区上野1-19-10 お問い合わせ TEL. 03(6740)7777 平日 9:00~17:00 (土日祝日は休み)



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC  
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ  
排気量 39.1cc

GZ4350EZ  
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚 108-1